國學院大學学術情報リポジトリ

『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-07-02 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松本, 久史 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002000537

「『國學院大學　国学研究プラットフォーム』の展開と国学史像の再構築」

プロジェクト責任者　松本　久史

本事業は、日本文化研究所の二つの研究部門のうち、建学の精神に基づき旧日本文化研究所の神道・国学研究を継承する「神道・国学研究部門」の研究事業として行われるものであり、2011～2013年度の研究事業「『國學院大學 国学研究プラットフォーム』の構築」以来築き上げてきた「国学研究プラットフォーム」のさらなる発展とその成果発信を目的とするものである。

本事業は、具体的には以下の三つの目標によって構成される。（１）国学に関する学説史・研究史の整理を行い、最新の研究成果を反映した国学史像を打ち立て、それを一般社会に向けて発信する。（２）上記（１）の作業と連動して、2015～2017年度の研究事業で構築した「明治期国学・神道・宗教関係人物データベース」の修正・管理を行いつつ、近世中期から明治初期までの国学・神道関係人物を対象として、データベースの拡充を行っていく。（３）これまでの事業で構築してきた国学研究のネットワークを拡張する。すなわち、定例の国学研究会・社家文書研究会を行いつつ、学内外の国学研究者を招いて最前線の研究状況に関する公開レクチャーを開催し、さらに日英両言語で運営する双方向型ウェブサイト「国学・神道・日本宗教フォーラム」を立ち上げ、国学・神道研究の情報をグローバル規模で発信する。

こうした事業成果の発信方法として、まず上記（１）における研究成果は、通史形式による国学の入門書としてまとめ、出版する。一般教養書として出版することにより、最新の国学研究の成果を社会に向けて発信する。また、その入門書は本学の神道文化学部の専門科目「国学概論Ⅰ」や「神道概論」の教科書、共通教育プログラム「神道と文化」の参考書として用いることができる。それによって研究事業の成果が学部教育に還元される。

（２）により拡充されたデータベースは、国学研究者にとって有益な研究のツールとなるものである。さらに作業の過程における研究史整理や人物情報の調査の成果が（１）に反映されていく。（３）の公開レクチャーやウェブフォーラムにより、国内における国学研究の最新状況や、グローバルな国学研究の状況を知ることができる。そこで得られた知見も（１）に反映される。さらにウェブフォーラムではこれまでの日文研における国学・神道研究をアーカイブ化して発信し、国内外に向けて研究の資源を提供する。第２年次には日文研が例年行っている国際研究フォーラムを、本事業の成果発表の場として企画し、行う。それらによってグローバルな国学研究のネットワークが構築される。

なお、2018年度の事業は以下のメンバーによって実施された。

責任者　松本久史

分担者

専任教員：齋藤公太
兼担教員：遠藤　潤
PD研究員：丹羽宣子
研究補助員：問芝志保、原田雄斗
客員研究員：林　淳
共同研究員：一戸　渉、小田真裕、芹口真結子、古畑侑亮

2018年度研究事業の成果

Ⅰ．近世・近代の国学・神道に関する研究史・学説史の整理と国学史像の再構築

（１）データベースの作成と連動しつつ、近世・近代の国学に関する研究史・学説史の整理を行った。具体的には近世・近代の国学に関する重要な研究文献を104冊選定し、とりわけ戦後の研究史・学説史を①終戦直後～1970年、②1970年～昭和の終わり（1989年）頃、③平成期、の３期に分けて調査と整理を行い、ノートを作成した。

（２）公開レクチャーも参照しながら、21世紀に入ってからの一次資料に基づく実証的な国学研究の成果をまとめ、それに基づく新たな国学史像について検討した。

（３）第３年次での国学入門書の出版に向けて、具体的な内容の構成案と、執筆者・担当箇所の原案を策定した。

（４）関連する国学・神道人物の一次資料の調査のため、またデータベースのための基礎的データ収集も兼ねて、神宮文庫（三重県）と西尾市岩瀬文庫（愛知県）への出張調査を行った（本誌トピック９参照）。

Ⅱ．国学・神道関係人物のデータベースの拡充

國學院大學デジタル・ミュージアム上の「明治期国学・神道・宗教関係人物データベース」の既存の項目を調査し、「国学関連人物データベース」との相互リンクを追加するなど、適宜修正・改善を行った。新たに近世中期～明治初期の国学・神道関係人物から重要な人物を31名選定し、先行の目録類や、「国学関連人物データベース」における当該項目を調査・確認し、先行研究の調査・整理を行い、確かな典拠に基づく人物情報と研究文献のデータを作成した。上記データベースを「国学・神道関係人物研究情報データベース」と改称し、新たに作成した17名の人物のデータを追加した。

なお、上記データベースのURLは以下の通りである。

http:// k -amc.kokugakuin.ac.jp/jmk

Ⅲ．国学研究のネットワークの拡張

（１）学内外から国学・神道を中心とする日本研究の若手研究者の参加を募り、各自の研究発表を行うことを趣旨とする国学研究会を、本年度は計６回開催した。これにより、学内外にまたがる国学・神道・日本宗教研究者のネットワーク形成を促進した（本誌トピック６参照）。

（２）本年度から新たな試みとして、「国学研究プラットフォーム公開レクチャー」を開始した。これは学内外の国学研究者を招き、それぞれの専門分野の見地から、国学研究の最新状況に関するレクチャーを行ってもらうというものである。このレクチャーは一般に向けて公開し、またそこで得られた知見を上記の学説史・研究史整理と国学史像の再構築に反映させていくことを趣旨とする。本年度は計４回開催し、各回合わせて延べ62名が参加した（本誌トピック３参照）。

（３）科研費基盤研究（B）「近世における前期国学のネットワーク形成と文化・社会の展開に関する学際的研究」（研究代表者：根岸茂夫）との共催により、11月18日に公開研究会「荷田春満の国学と国学史学説の再検討」を開催し、計24名が参加した（本誌トピック４参照）。

（４）国内の国学・神道研究に関する情報を日英両言語で発信することを目指し、ウェブ上に開設する「国学・神道・日本宗教フォーラム」の設計に関して協議を行った。協議をふまえ、上記フォーラムをFacebookグループとして開設し、運用を開始した。

以上が2018年度の事業成果であるが、2019年度は以下のように事業を実施する予定である。

2019年度の研究事業の計画

Ⅰ．近世・近代の国学・神道に関する研究史・学説史の整理と国学史像の再構築

（1）前年度に引き続き近世・近代の国学に関する研究史・学説史の整理を行う。その過程で、従来の思想史的な国学史像の問題点を洗い出していく。

（2）公開レクチャーも参照しながら、21世紀に入ってからの一次資料に基づく実証的な国学研究の成果に依拠し、新たな国学史像を具体的にまとめていく。国学史像の案は前述の国学研究会や「国学・神道・日本宗教フォーラム」において発表し、検討する。

（3）前年度に策定した執筆者の担当案にしたがい、（2）においてまとめられた国学史像に基づき、国学の概説書の執筆を開始する。

（4）関連する国学・神道人物の一次資料の調査とデータベース上の国学・神道関係人物の基礎的データ収集のため、中部・東海地方の資料館を対象として出張を行う。

Ⅱ．国学・神道関係人物のデータベースの拡充

（1）前年度に引き続き、國學院大學デジタル・ミュージアム上の「国学・神道関係人物研究情報データベース」の修正・管理を行いつつ、近世中期から明治初年までの国学・神道関係人物を対象として、先行の目録類や、「国学関連人物データベース」における当該項目を調査・確認する。また、先行研究の調査・整理を行う。

（2）これらの調査に基づき、データベースの項目を作成し、順次アップロードしていく。

Ⅲ．国学研究のネットワークの拡張

（1）月に1、2回を基本として、定例の国学研究会・社家文書研究会を開催する。国学研究会では学内外から国学・神道を中心とする日本研究の若手研究者の参加を募り、各自の研究発表を行う。また、上記Ⅰ（1）（2）における研究成果の発表と検討も行う。社家文書研究会では近世・近代の国学・神道に関する一次史料の読解を行い、史料読解能力の向上も目指す。

（2）「国学研究プラットフォーム公開レクチャー」として、学内外の国学研究者を招き、それぞれの専門分野の見地から、国学研究の最新状況に関する講演を行ってもらう。レクチャーを一般に向けて公開しつつ、そこで得られた知見を上記の学説史・研究史整理と国学史像の再構築に反映させていく。

（3）前年度に開設した「国学・神道・日本宗教フォーラム」の管理と運営を行う。SNSの機能を活用しながら国内の国学・神道研究に関する情報を日英両言語で発信する。

（4）過去の日本文化研究所における国学・神道研究の成果をアーカイブ化し、上記のウェブフォーラムなどを通じて国内外に発信する。

（5）2019年度の国際研究フォーラムは神道・国学研究部門が企画と準備を担当する。「21世紀における国学研究の新展開　国際的・学際的な研究発信の可能性を探る」というテーマのもと、世界各地の国学研究者を招聘し、国内外における国学研究の成果の紹介・共有、国内外の視点の相互交流を目的として開催する予定である。

報告者としてベティーナ・グラムリヒ＝オカ氏（上智大学）、蔣建偉氏（中山大学、中国）、藤原義天恩氏（レスブリッジ大学、カナダ）、裵寛紋氏（KAIST、韓国）、ジョン・R・ベンテリー氏（北イリノイ大学、アメリカ）、松本久史（國學院大學）、コメンテーターとして一戸渉氏（慶應義塾大学）、桐原健真氏（金城学院大学）、林淳氏（愛知学院大学）を予定している。